

相手を理解し、まず心をほぐす 老若男女、悩みは全く個々別々

日遊協は遊技産業のなかで「依存対策」に積極的に取り組み、啓発活動を強化しており、庄司孝輝会長は新たに組織内に「依存対策プロジェクトチーム」の立ち上げも検討している。本誌は3月号で、久里浜医療センターの河本泰信医長のインタビューを掲載したが、今号は電話相談の現場からのレポートとして、リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）の西村代表理事の講演をお届けする。これは、RSN主催で2月12日に開かれたセミナーの「電話相談から見えるパチンコ・パチスロ依存の現状」で話された内容の要旨である。

リカバリーサポート・ネットワーク 西村直之 代表理事



西村直之 代表理事

パチンコだからこそ生きてくる電話相談

リカバリーサポート・ネットワークは、日本で唯一のパチンコ・パチスロ依存問題を専門とする電話サービス機関です。2006年に電話相談を開始し、これまでに1万2000件の相談に対応してきました。月の相談件数は2000、3000件で、相談料は無料です。

電話相談を継続していて、とりわけ重要だと思えるのは、患者さんからのSOSです。私はもともと薬物依存からの回復支援の仕事をしておりました。薬物依存の場合、患者自身が犯罪者として扱われやすから、重症化して助けを求めようにも、そういう場所がない。助けを求めるとは、警察に捕まることを意味しますから、相談なんてとてもできない。

そうしたシステムが出来上がってしまっていますから、相当重症な患者さんからもSOSの声を聞くことができません。中には悲劇的なケースに至ることもままあるわけです。ところが、パチンコ・パチスロの場合は、そうではありません。パチンコをするだけなら、別

に法に触れるわけではない。そうであれば、自ら助けを求めることができるのではないか。そういう発想の転換から、電話相談を始めました。

A4ポスターが武器に 大きい21世紀会の支援

電話相談開設に当たっては、全日遊連パチンコ・パチスロ依存問題研究会やホール経営者有志の方などのご協力で、各ホールにポスターを貼り、電話相談を受け付けるといった方法をとりました。電話相談という性格から、相談者の8割が当事者本人からの相談です。この点では、きわめて特異な相談機関といえます。

運営に当たっては、パチンコ・パチスロ21世紀会など14団体からの支援、寄付、会費をいただいています。2013年12月、沖縄県認定の第1号認定NPO法人として承認されました。

私たちの最重要なツールは、このA4サイズのポスター（37ページ）です。この大きさには意味があります。ホールのトイレに貼っていただくように、このサイズにしました。依存症の可能性が高い、い

くるのでしょうか。私たちは、相談者に、こうしなさいとか、こうしたらやめられます、というような話は、決してしません。なぜなら、それに反発して、逆にムキになってもっとやってしまうかもしれないからです。

電話をかけてきたことで、とりあえずプレーをいったんストップすることができず。電話をかけてきたことを評価されることによつて、幾分か罪悪感から逃れることもできます。電話をかけてくることで、「おれは一体何をやってるんだらう」と考える時間を持つこともできます。

相談者からは、いろいろな質問が出ますが、一番多いのが、「やめようと思ってもつい行ってしまふ。私は依存症ですか？」というものです。こういう相談者に、「はい、あなたは依存症です」と言っても始まりません。「はいそうですか」で終わってしまったら何の解決にもつながりませんからね。

「自分は依存症ですか？」という質問は実はナンセンスなのです。相談者に対していきなりナンセン

わゆるヘビユーザーの方は長時間ホールにいますから、必ずトイレには行きます。その時に、目にしてもらうように、というわけです。ポスターは年間14万枚刷っています。全日遊連の機関誌「遊報」に同封してもらうほか、私たちのホームページからダウンロードしたり、最近ではパチンコ・パチスロの攻略雑誌にも定期的に載せてもらうようになりました。できるだけ多くの人の目に触れるように努力しています。

取り組んでいたのだ、つまりポスターをいろいろな所に貼っていたのだおかげだと思えます。事務所は、沖縄県那覇市西原町にあります。スタッフは常勤2名、非常勤2名の4名が働いていますが、おかげさまで、てんでこ舞いの毎日です。

「いっしなさい」など言わないようにして

どのような人が、電話をかけて

パチンコは、適度に楽しむ遊びです。

お電話ください。

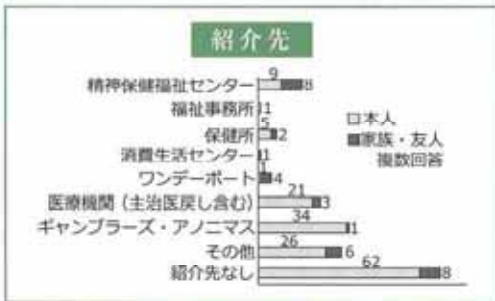
050-3541-6420

http://rsn-sakura.jp/

特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワーク

講演 電話相談の具体例から

2014年2月の電話相談のデータ報告(さく5通83号)



経路

	本人	家族・友人	合計
ホール内ポスター	84	7	91
インターネット	39	16	55
雑誌	4	0	4
他の相談機関	0	1	1
その他	11	4	15
不明・拒否	8	0	8
総計	146	28	174

と息子の世代ですから、なかなかわかってあげられないところもあります。そこで、最近ある60代の女性にお願ひして、相談員になってもらいました。年齢の近い者同士でしみじみとした話ができ、少なくとも、罪悪感のレベルを和らげ、最悪の

この人の場合、パチンコでは所詮、永久に勝つことはできないというところはよくわかっていると言います。しかし、負けて2~3日もすると、またパチンコに行ってしまう。勝てないとわかっていのに、すぐ気が変わり、行ってしま。自分でも何が何だかわからない。思考が混乱して、筋道立てて、物事を考えることができないようです。

実は、パチンコ依存にはこのタイプが多いんですね。こういうタイプが、リストラなどで気持ちがあ

した。とりあえず、母親の住む地区の保健婦さんに連絡を取り、親戚や兄弟とも連絡を取って、あまり感情的にならず、落ち着いた対応するように勧めました。

その後、この母親が、依存から抜けただかどうかはわかりませんが、少なくとも娘さんの方の精神的混乱はおさまりました。団塊の世代もあと10年、20年すると、このような時期を迎えます。お爺ちゃん、お婆ちゃんにとつても、娯楽は本来、楽しく健康的なものでなくてはならないと思います。

孤独感を理解できる 年配の相談員を採用

67歳の女性です。夫はすでに他界して、今は年金暮らしです。子供も結婚し、他県で暮らしています。パチンコは10年くらい前に始めました。最初はビギナーズラックで大勝ちしたのに味をしめ、パチンコが好きになりました。最近では何の問題もなく過ぎていました。

ところが、1年ほど前から、生活

費にも手を出さずようになります。年齢からくる強い孤独感を感じるようになり、家に一人でいることが、辛くてならないと言います。

年金もすぐ底をつき、本来なら孫に何かを買ってやらなくては、と思うと、罪悪感に駆られるとも言います。

孤独感と罪悪感にさいなまれ、相談の電話をかけてきたのです。こういうケースの場合、下手ですると、自殺のリスクもかなり高まります。私たちの相談員は、せいぜい50代ですから、高齢者から見ると息子

リスクを下げることに成功しています。

勝てないと知りつつ通ってしまう不安が

56歳の農業者の方です。2年前、リストラで失業、実家が農業だったもので、再就職が決まるまでの間、農業の手伝いをして暮らしていました。ただ、再就職は簡単ではありません。その憂さ晴らしから、パチンコに依存するようになり、貯金にも手をつけられなくなりました。借金はないものの、文無しの状態に陥ってしまいました。

家庭のストレス原因 罪悪感を抱えて通う

子どもを幼稚園に通った後、ついパチンコに行ってしまう、という28歳の主婦です。パチンコを始めて1年。週3~4回で、月に2万円くらい使ってしまう。金額からいうと、大したことではないかも知れません。

ホール経営者の皆さんから見ると、この程度で依存症云々と言われてはかなわないとと思われるかも知れません。理由を聞いてみると、子どもを幼稚園に通った後、

一つの対処法として 「毎朝でも電話して」

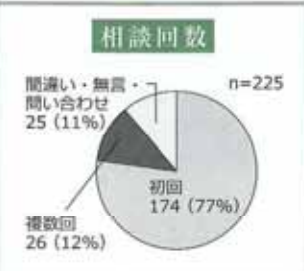
こういう人にも、いきなりやめようというのは、言えません。家の中の逃げ場のなさから逃れるためにパチンコをし、さらに罪悪感に陥ってしまう、そして余計にストレスを感じています。だとするならば、ストレスに対する対処法として、パチンコではない、他の方法を見つけてみませんか、

その中で、いろいろな子育て支援や、発達障害の子供や知的障害の子供を抱えていたら、それにあう社会的資源をピックアップして伝えていきます。この相談者の場合は、その後数回電話があり、今は連絡が途切れているようですが、話の内容から、おそらく自分を取り戻し、パチンコに依存する状態

まっすぐ家に帰るのがいやなのだと言います。姑との関係や子育ての疲れや子育てをしたいというのが動機です。

この相談者は、パチンコのための借金は無いのですが、生活費を使いこんでしまうことに罪悪感を感じています。本来、楽しい娯楽なのに罪悪感を抱えてホールに通う、これが問題なのです。家庭を持った女性の場合、パチンコが家庭の大きな問題になりやすいという特徴があります。

また、電話相談のデータ報告から、



性別

本人 n=146 (初回のみ)		家族・友人 n=28 (初回のみ)	
男性	女性	男性	女性
111 (76%)	35 (24%)	24 (86%)	4 (14%)

「60万円貸してくれ」
遠くに住む母が心配

83歳の母親が、年金をすべてパチンコに使ってしまうので心配です、という57歳の主婦の方からの相談がありました。1人暮らしの高齢者が、依存に陥るといことは、よくあります。北海道に住んでいるのですが、娘さんは九州にいて、おしと会いに行くこともできず、いたるところ、突然「60万円貸してくれ」と電話で言ってくる、娘さんを困惑させています。

8年前、夫と死別してから一人暮らしで、孤独と不安の中から、パチンコにはまりこんだそうです。少し認知症も始まっているよう

講演 電話相談の具体例から

理不尽な文句を言う 困った人も多くいて

このような相談のほかに、相談電話には様々な苦情も寄せられます。例えば、「すぐにやめられる方法があるのなら教えろ」という要求。「そんなものありません」というと、激怒して、「1時間くらい文句を言うというようなケース。」「ポスターにある。適度に遊ぶ、とはなんだ。そんなものあるはずないだろう」というものもあります。世の中に適度に遊んでいる人はたくさんいます。適度に遊んでいない人がこういうことを言ってくるんですね。「お前こそ業界とつながっているんだらう。この偽善者！」という人には、確かに業界の支援や寄付で運営しています。

「取り組みに感心した」「業界の見方変わった」

好意的な反応ももちろんあります。「どのホールに行っても貼ってあるので、信頼できる機関だと思っ



RSN理事会での西村代表理事(中央奥)

て電話した」「ホールも思い切ったことをしますね。業界の見方が変わった」というものもあります。今では大体8割のホールにポスターが掲示されています。「パチンコ問題を相談できる機関があること自体知らなかったので助かった」という声もあります。助かった」といふ相談者の気持ちが大切だと思えます。

「業界全体で取り組んでいるのがいい。続けてくださ」という声もあります。業界全体というのが重要だと思えます。相談者の信頼のもとになっているようです。

「啓発ポスターをホール従業員から教えてもらい、電話した。取り組みに感心した」という電話もありました。ホールの側からの、こういう声かけも重要です。

「ポスターにあるチェック項目に当てはまるものが多かったので相談した」「他人にパチンコがやめられない、なんてとても相談できない。誰にも知らず相談できる」というので安心した。トイレでこっそり携帯に登録し、電話した」

依存の背景に3要因 「商業的」絡むと厄介

パチンコ依存の背景について考えると、大きく「商業的な要因」「環境的な要因」「個人的な要因」の3つがあると思います。ただ、環境的な要因や個人的な要因というのは、いつの世の中でもあるものですが、これらに商業的な要因が絡むと、問題をこじらせてしまいがちです。こうしたところから、企業の社会的責任というのも生じてくるのだと思えます。

娯楽には必ず依存があります。楽しくなければだれも付いていきません。おいしくないご飯を、だれが食べますか。そのため、できるだけリスクを少なくする、あるいは、問題が起こってしまった場合の対処法を用意しておくことが重要です。そうしたこと、これが重要で、社会の中で、このくらいリスクはあってもいいよね、という「娯楽のコンセンサス」が生まれるのではないかと思います。

まじめな性格なのに 歯車が狂ってしまい

21歳のホール従業員です。両親が幼いころに離婚。高校中退でアルバイトを始めています。20歳のころ友人に誘われてパチンコを始めました。学費の貯金と家計を助けるため、自給のいいホールでアルバイトを始めました。大変マジメな青年です。

ところが、毎日大勝しているお客さんを目にしているうちに、自分も勝てるのではないかと思いい、徐々にパチンコにはまりこんでいったといえます。相談の電話をか

ホールの管理者も 仕事の重圧に負け

37歳のホールの管理者の方です。パチンコは高校生の時、友達に勧められて始めました。32歳の時、借金が重なり、一度債務整理をし

相談員も困り果てた 息子を苦しめる母親

頻りにパチンコに行く母親に困り果てた17歳の高校生からの相談です。あまりの悲惨さに、事務所の相談員全員がへこんでしまった

このケース、さまざまな専門的な支援が必要で、どのように対処したかの具体的な報告は控えさせていただきますが、要は、大人たちの一時的な娯楽の結果、若い人の未来まで奪ってしまっているのか、ということではないかと思